

刊夕日六十月二十



定価 一部金五銭 五部金五拾銭 郵税五銭
廣告料五銭以上 印刷費別行金五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

郡下兒童唱歌會感想

荒生

そこで今回の催はそのいづれに相當してゐるか。言ふまでもなく郡聯合の唱歌科向上のための純教育的唱歌會である。たゞ舞踊も少からず加味されてあつたから、この科の向上の資となつてゐるが、舞踊は大体氣分轉換位の氣持で、會としての主眼は唱歌であると言つてもよいから、本當の意味の唱歌會即ち唱歌科の研究向上のための唱歌會と見るのが正しい。

故にそこに演奏される曲目は日常教室で堂々と教授し得る曲、即ち檢定済又はそれに準ずべき物でなければならぬのは言をまたない。又難易の程度もその學年相應なものでなければならぬし、發想、速度等も出來得る文作曲者の指示に忠實に行はねばならぬ。

一寸弾ける自信のあるものゝ誘惑を感じさうなものや安價な感傷的のものであつて、そうしたパットしたものは誰れしも一寸ヤンヤと喝采したり賞揚したりするために、不知不識のうちに演者もさうした曲目を選んで大向ふをうならせて見やう等と野心を起したりするのであるから、一概に演者

のみに責めるわけには參らないが、こうした事はお互ひに反省し自重してあくまでも強く、正しく教育道に精進するやうにしたいと祈る次第である。

出来は更に一層の飛躍的好成績であつたと思つたことである。先ほとんどクヅなしと思はれる程であつた。これ程の好出來榮えの會は恐らく全國にも少からうと思はれる。現に私は昨午上野音樂學校に於いて催された、立体的音樂會、即ち幼稚園から専門學校までの代表校が選ばれて一堂に集つて歌つたのを聴えたが、その時の中等學校の出來榮えにも劣らないと思はれるやうな立派な出來榮えを示したのが今回少くなかつたのを見て「東北の一角にも本格的音樂の時代至れり」と快采したものだ。

「音樂會の教育的考察」はこの外種々述べたい事があるが、これは本稿の目的でないから他日にゆずり本稿は出來る丈け早く、本論の批評に入ることにする。

し、男子先頭に立つて充分に活躍するにあらずんば音樂の如き「藝術」の完成は期し難い。

この意味に於いて本郡の唱歌科のために大いに祝福したいと思ふのである。選ばれた曲目もいづれも非の打ちどころのないものばかりであつて、唱奏技術もすばらしいものが多かつた。

中には二三選曲上から唱奏上から遺憾と思はれるものも

ものないではなかつたがそれらは群鶴の一鶏としてほとんど印象に残らなかつた程、全体として好成绩であつたと思ふ。

以下試みる細部批評は前述の如き好成绩に對してはほとんど必要を認めない程だと思ふが、百尺千頭更に一步の躍進を念願する者の一老婆心としてお許し願ひ度い。

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土會

平田町六九 電話二二七番

三井タクシ

平町二丁目 電話六八五番

忘年会 新年會

萬事御希望に副ふやう勉強して御奉仕致します
御通知下されば當方から御相談に參上仕ります

住吉屋本店

平町紺屋町 電話一五九番

織元直賣



十二月 十七日 午前九時ヨリ
十八日 午後五時マデ

場所 平町四丁目角 マルトモホール

メチヤク 御素人様も 御商人様も 是非御來場

特別奉仕品 午前九時 晒 正一反 二十五銭 午後一時 腰巻 十銭

製造 問屋 京都物産 合資會社 萬一買切の節は御断り申ます

日清日露に 護國の力

當時の死傷者 平町に廿一名

平町出身者で日清日露兩役に出征し戦病死並びに傷痍して護國の基を築いた人々の調査を町役場で行つた處戦死者が十一名、病死が二名、傷痍が八名あるが中に二丁目一九故山崎勇次郎氏は露國軍艦に撃沈された常陸丸乗組火夫として職に殉し軍人同様戦死者を以て遇されて居ると因に死傷者氏名左の如くである

- (戦死者) 村上利喜造 緒形正雄 齋藤齊治 沖野新三郎 吉田寅之助 舟山貞治 小野清藏 須藤菊之助 山崎勇次郎 沼田泰 鈴木綱政(病死者) 鈴木茂等 大泉秀雄 (傷痍者) 岩本重雄 比佐又藏 端山正雄 馬目悦善 大和田芳吉 飯田近治 荒川祐一 伊關房次

同情金は 五百圓突破か

第一日目成功

既報平町共済事業助成會では貧困者救済の同情袋を全市に配り昨十五日から取纏め第一日目の昨日は寄附金百四圓及び米二升あり締切日たる十八日迄には寄附金五百圓を突破する見込みであると

徴兵適令者 平町の調査

平町役場では早くも明九年度の徴兵適令者調査を行つた處平町現在の適令者は百六十六名で是の外平町より他町村に寄留して居る者約四十名あり明年度の適令者は大正二年十二月二日より同三年十二月一日迄の出生者で未だ役場に適令届の出していない中等學校卒業

上の者は十二月末日迄に一般の適令者は明年一月十五日迄に夫々届出られ度いと

飯野村に 産業組合組織

飯野村では經濟更生の第一歩として産業組合の創立運動を開始したが組合員二百餘名を得たので来る廿三日午前九時より同村小學校に於いて第二回設立協議會を開き役員の選舉を行ふと

經濟更生 縣からも出席

經濟更生指定村に編入された大浦、泉、錦、入遠野、大野渡邊、神谷、四倉の各町村は明十六日午前十時より泉小學校に於いて更生研究會を開き對策を協議するので縣から大塚産業主事成島技師等が出席する

平商生叫ぶ 廿日に辯論大會

既報平商業學校秋季辯論大會は来る二十日午前十一時より同校講堂に於いて音樂部と合同開催されるが各學年の出演者及び演題は左の如くである

- (時局に目覺めよ) 同鹽澤友吉(噴火山の上の世界)三年根本健二(成が殉國の精神) 岡岡田彦太郎(青い鳥) 五年諏○次郎(純正なる若人の意氣) 同山田正直(落葉によせて) 同門馬利治(未定) 同開場修一郎(未定) 同山家正

年賀の 繪葉書圖案

平第二校で展覽會

平第二小學校では来る二十七、二十八の兩日同校講堂に於て圖書部主催の下に全校兒童の年賀繪はかき圖案展覽會を催すが審査員は海野、渡邊、橋本各訓導で優秀作品には各賞を授與する

滞納整理 着々進行

平縣稅務出張所では本年前期分の家屋、營業、雜種各稅

の滞納額約七萬餘圓を去る九、十一の兩日平町外四ヶ所で公賣處分に附した處その内九分通りは納付されたので滞納額を來る廿八日の御用納當日迄に全所員が腰辨當で出張整理する由にて最近滞納者は各町村公共賣當日に納付する者が多いと

初貯藏の 獎勵協議

石城産業組合會では來る十九日部會樓上に於いて郡下廿六産業組合主事を招集初貯藏獎勵協議會を催し組合の貯藏法に就いて打合せすると

卓球大會 大塚主催で

平第三小學校主催大塚運動具店及び平卓球協會後援の第三回郡下ピンポン大會は來月二十八日同校講堂に於て催される

第一考査終る 平第一小學校の第二學期學力考査

一小學校の第二學期學力考査は本日限り終つたが成績發表は來る二十八日午前九時である

平町人事 回出生

- △古鍛冶八八 高萩誠氏三女登美
- △八幡小路七九 紺野勝治氏四男孝伸
- △一丁目二十 齒部國安氏四男弘

△大工町一七 當時石城郡湯本町宇三函一八三丹野玉磨氏二女瑛子

回死

- △堤ノ内二二 大五郎氏姉佐久間ジャウ(四四)
- △彌宜町六 金成清保(四二)
- △古鍛冶八七 磯野熊之介(六九)

平百面鏡

京都物産合資會社では明日より二日間平四丁目マートモホールに出張販賣を開始し毎日午前九時より午後五時迄京吳服の大廉賣を行ふが午前九時には晒一反二十五錢、午後一時には腰

京吳服を 出張廉賣

特別の奉仕

此程世界館西隣りに小綺麗な松竹食堂が開業され非常な繁昌だ之れはカフェー世界を經營してゐた關内將一君の進出經營になるもので美味なものをお安く食べさせるだけに人氣を呼んでゐる

松竹食堂 美味で安價

此程世界館西隣りに小綺麗な松竹食堂が開業され非常な繁昌だ之れはカフェー世界を經營してゐた關内將一君の進出經營になるもので美味なものをお安く食べさせるだけに人氣を呼んでゐる

石山式 ムシ竈

木町石山商店では此程便利なムシカマドを發明特許一八七四三〇號を獲得石山式と命名賣出したが同カマドは全然異つた特長を有しての外仕上りも銀色を呈して体裁も優美頗る好評を博し賣れ行き盛んであると

歳末大賣出し

歳末も愈々押し迫つて参りました非常時日本が更に非常時をつくるを呈して御力ながらお客様本意としてよく備つた店買よい店確實な店をモットーとして聊か擴張を圖りました。命眼鏡の精品をお上げする事が出来るやうに致しました。歳末から年始にかけてこれら各種品を全部景品付で奉仕して皆様の御満足に添ふつみで居ります。是非一度御来店の程をお待ち申して居ります。

根本 時計眼鏡店

平町二丁目 電六〇七

一家皆殺し

ダイを投げ込む

歸宅せぬ女房への恨み 身仕度を整へて自首す

好間村小田炭礦坑夫小川五郎方同居人茨城縣水戸市外常葉村字古ノ下一一五生れ寺門次郎吉(九)は本十六日午前一時半頃妻の

實父に 當る赤井村字

鍋石居住農遠藤留治方の一家塵殺を計り礦山用ダイナマイト三本に点火して床下に投込んだので轟然と爆發し土臺一尺餘を吹き飛ばし戸障子等を散々に

破壊した、犯人は

且歸宅して身仕度を整へ今朝午前四時平署に自首して來たダイナマイトは幸ひ軒

情夫を 作り十月廿八

日寺門に難癖つけて前記實家に立歸り再三歸宅を促したが受けぬのを怒り決行したもので目下平署ではダイナマイトの出所を取調中

少女の浪花節 聚樂

館で十七日午後六時より平和會主催で少女浪花節妻川

鶏専門に盗み廻る

けふ検事から懲役七年求刑

江名町大字上神白字大澤二七生れ目下住所不定前科六犯丹野梅次郎(七)が去る三月四日午前一時頃大浦村大字上仁井田岡田源太郎氏方の鶏小屋に忍び入り白色レクホン二十羽價格二十餘圓を窃取逃走湯本町大字水ノ谷字諏訪ケ崎鶏商馬路榮治氏に名前を詐り七圓で賣却した外前後七十二回互り鶏専門に各所を荒した窃盜事件の公判は本日午前十一時半より平區裁判に於て香西判事係り清田檢事立會の下に開延され事實訊問の上檢事より懲役七年を言渡されたが判決言渡しは來る十八日午前九時である

玉川前村長

執行猶豫の恩典

森めく傍聽人等大喜び

既報 玉川村長駒木根忠三(九)氏に對する匡救工事に關する公文書偽造事件の判決言渡し公判は本日午前十時より平支部に於て中島才判長係り關口、香西兩判事陪席、三堀檢事立會の下に開延されたが判事より懲役一年三ヶ月但し執行猶豫三年間を言渡され場外に迄溢

れた村内からの傍聽人は執行猶豫の恩典にこぞどしして喜んで居た

檢事正來郡

植田署開きに

福島地方才判所後藤檢事正は明日舉行される植田警察署竣工落成式に臨席の爲め本日平着午後六時二十二分

平署逮捕賞與

平署 察署巡查井上潔、本田敬治

明日のラジオ

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
兒童劇「其の後の兎と龜」
仙台市上杉山通小學校兒童指揮伊藤博
後六、二五 講演「冬の吾妻」齊藤陽吉
後七、〇〇 時事解説
後八、〇〇 映畫劇「陣屋の正太郎」日活時代劇部
杉山昌三九 雲井龍之助
山田五十鈴 その他大せ
演出辻吉朗
後八、五〇 ビアノ四重奏
妻奴一行が開演される

明日の部

前九、一〇 營養料理献立
夕食「酢味噌煮」營養研究所
前九、三〇 (子供の時間)
居侵入罪として罰金二十圓
△既報内郷村大字綴字秋山三四自動車運轉手小野伸藏(七)が去る九月四日午後十時三十分頃平久保町磐越線踏切に於て列車と衝突乗客好間村箱崎登、箱崎シゲの兩名に對し各重傷を與へた業務上過失傷害事件の公判は本日午前十一時より平區裁判所に於て關口判事係り三堀檢事立會の下に開延されたが判事より罰金四十圓を言渡された

お話「昔の玩具いろ」
九十九
前一〇、〇〇 宗教講話
「祈る心」鞍馬寺貫主
信樂直純
前一〇、四〇 講演「超顯微鏡的病源体に就て」
岐阜高等農林學教授
植浦 誠
前一一、一〇 移植民講座
(終講)外地に於ける移植民概況 拓務事務官
森重千夫
後一〇、五〇 滿洲より
「講談とレヴュー」の午後
後一、二〇 講演「後藤半四郎」(其一)一龍齋貞山
後一、五〇 レヴュー「新古猿蟹合戦」二村定一
榎本健一 外大勢

後二、三〇 講談「後藤半四郎」(其二)一龍齋貞山
後三、〇〇 ミュージカル
コメディー「美人島満員」水ノ江龍子 草香田鶴子
後六、〇〇 (子供の時間)
長唄 中村いち子其他
後六、三五 産業ニュース
後七、三〇 合唱と獨唱
新交音樂團練習所より中繼(合唱)東京合唱團(獨唱)ソプラノ、黒澤貞子
テナー、煤孫ロイデン
後八、〇〇 ラジオ風景
(歳末二題)泉天嶺 駒井
司郎 立花實外大勢
後八、三〇 落語「鈴ヶ森」
雷門助六
後九、〇〇 歌謡曲「大島おけさ」外六ツ 唄勝太郎

△泊、月十三圓外面談
△回職を求める方
△料理人四十才 尋卒 給料面談
△炊事婦 四十七才 無學 給料面談
△事務員 佑賢卒給料面談
△小使 十八才 農村校二修給料面談
△小使 四十才 高卒給料面談

裁判所だより

△小名濱町字小屋ノ内一〇漁夫石川松治郎(三)は去る九月一日午後九時頃同町小松サタ方に於て同町海元不三松と口論の末有合せのエツブ二名を同人に投げ付前顛頂部に全治一週間を要する打撲傷を與へ科料十圓
△川前村大字川前字柵立一五六自動車運轉手永山幸一(三)は去る二月二十三日前一時頃田村郡夏井村大字北田原井吉田嘉藏方へ忍び入り住

平職業紹介所報告

回人を求める方
△菓子職人 二十才 尋卒 卒月十五圓
△自動車助手 十七才 尋卒 給料面談
△商店員 十八才 高卒 仕着外三圓

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雑誌

自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

銘劍秘史

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第百十六回 此處に崇る妖刀

千吾村正と鑑定

「今夜講中揃つて来たのは例ものやうに糠に釘でなく確かりとした挨拶を聞かして貰はうと思つてゐる」
久「さうとも、例も宜い加減のことばかりヌラリクラリと酔つぱらひのやうな逃口上、味噌や醤油の勘定はどうしてお呉んなさる」

八「ソリヤ私の方も同じこと、お前方を堅炭の人と思つたから是まではまつ薪にして置いたが、モウ今夜は是非拂ひずみにして貰はにやアならなえ」
と下手な口上茶番もどきで殿しい催促病人の采女が之を聞いて

采「段々とお拂ひが延引いたし面目次第もござらんが見られる通りの次第ゆえ今暫らく御猶豫を願ひたい」
「いや今夜は何といつてもモウ勘辨ならぬ、金がないやアお前方の着てある衣類からその薄つべらな布團……」

久「オットこゝに縫掛けてある着古しながら紋付小袖これでも抵當に持つて行かう」
と三人が立掛る采女は堪

へ兼ね、怒りを含んで
采「町人共無禮であらう、武士が手を突き頼み入るを其方共は肯がれぬのか」
「イヤ武士」と威張つても借りた物を返さねえと



見た所では覺えないものだせ」
傍からおゆきが心配顔でゆき「モシ和郎そんな事を仰しやつてもお金の工面が……」
采「イヤ心配しやるな、金子調達の道がある」
「さういふなら満更嘘でもあるまい、夫ぢやア明日六ツを合圖に出掛けて来るから間違ひなく頼みます」
と掛取はゾロ／＼出て行つて了つた、後でおゆきがゆき「モシ貴郎、明日の朝六ツといへば只一晚の事今

と起き直つた采女は風呂敷を解き鞆を拂つて
采「ゆき見やれ、其方も木阿彌の娘刀の鑑定を存せぬことはあるまい」
ゆき「ハイ」
とおゆきは口に袖を當てジツと刀を見詰て居たがゆき「女の事ゆえ能くは判りませんが中身は確に千吾村正」
采「オ、あつぱれ目利この村正には仔細がある、今始めて語り聞かせるが、仰々この刀はその昔徳川家康公の御康中築山御前が疾妬のために御子息岡崎三郎信康殿を誘引し武田勝頼と謀つて織田、徳川の兩家を倒さんとしたその事露顯して築山殿は討ち果され信康殿も御實子とはいひながらこれを助けては織田殿に申譯なしと遂に切腹仰つけられた、その時に介錯の役目を蒙つたのは我先祖天方山城守道經と検視役が服部半藏正成、兩人三州岡崎の城へ參つて信康殿に對面をして上意の趣きをのべると信康殿が、兩人遠路上使の役目大儀に存する、今更何事をか申すべき、最早信康も覺悟いたして居るが、だ、一言申置きたきは我等は武田勝頼に一味して謀叛を企てんとはさら／＼思ひも寄らずこの事は先に御最期あらせられた母君築山御前から承知の事なるが、それは俗に云ふ死人に口なし、生き残りたる信康が如何に辨ずればとて申譯立たず速かに生害いたすが死後に至つて

いふ法はあるまい」
八「口惜ければ耳を揃へて勘定さつしやい」
采「ウム如何にもその方共の勘定今夜の中に金子を調へ明朝支拂ひ遣はす」
八「ソリヤ勘定さへして呉んなさりやア何の言ひ分がありませう」
久「ダガ八兵衛さん、斯う

夜の内はどうして御金の才覺をなさるお心算で……」
采「固より貯へともなれば才覺といつても別に仕様はないその戸棚の中にある刀を出して呉れ」
ゆき「ハイ」
とおゆきは豫て戸棚に藏つてある風呂敷に包んだ刀を取出し夫の枕許へ差出す

父上へ兩人より能く／＼申上げ呉れよ、信康は謀叛露顯に及んで申譯の爲めに死するのではない、疑中ではあるけれども、わが死が天の爲であると思ふから潔く切腹いたすと言ひながらいよ／＼其座へ直られた時に、山城そちらは日頃の馴染なれば快く冥途へ參られるやうかい錯して呉れ而して其の劍は予が秘藏し千吾村正を用ゐ呉れよ、村正は汝に遺品として遺はすと仰せられ、御自身も村正の短刀にて御生害遊ばされた、御年僅に二十二才の若大将實に惜しい事を致した道經拜領の村正にて御かい錯申上げ兩人濱松へ戻つた」

子供服とオーバー賣出し

お坊ちやま お嬢ちやまの楽しい
嬉しい お宮参りに可愛らしい
なかやの子供服とオーバーを御選
擇のほどを……

ふかや洋服店 平電203

年賀狀の印刷は
此活字をお勧めします
御一報次第社員參上……

常盤毎日印刷株式會社
電話六三〇番

玉屋洋品店
平町通電話六五六番

感じのよい！
客に親切な……

藥種賣藥、工業藥品
衛生材料、各種染料
化粧品、其他

阿部藥舖
平・田町(松月堂向)